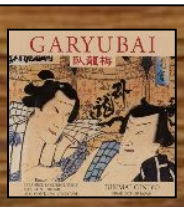
『臥龍梅』　蔵便り

平成二十五年如月



拝啓　まだまだ寒い日が続いておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

弊社では、毎年、2 月 3 日の節分の日に近隣の静岡市葵区上足洗にある天昌寺の厄除地蔵尊にお参りして厄除けのご祈祷をお願いすることにしております。酒造りの始めに蔵で醸造祈願祭を執り行うのと並ぶ恒例行事です。ただし、蔵人は年中無休で働いている関係上、めったやたらに外出するわけにはまいりません。社長の私が代表して参詣いたします。この天昌寺に祀られているお地蔵様には五百年以上の歴史があるそうです。この地出身の柴屋軒宗長(さいおくけん　そうちょう)という連歌師が京都にいたとき、柔和な顔をしたお地蔵様が夢枕に立ち、「自分は今、川原に埋もれているが、機会があれば世に出て人々の苦厄を除きたいと願っている」とお告げになったそうです。このお告げに感じ入った宗長が駿河の国中を捜し求め、苦難の末に川原の中から石に埋もれたお地蔵さまを見つけ出してお祀りしたのが始まりだそうです。その後今日に至るまで参詣客が絶えないのもご利益がある証と言えましょう。ちなみにご祈祷にもお布施の額により段階があり、節分の日だけのご祈祷、縁日ごとのご祈祷、毎日ご祈祷の 3 種類です。弊社では奮発して毎日ご祈祷をお願いしております。お坊様が毎朝欠かさず名前を読み上げて厄除けのご祈祷を挙げてくれていると思うと、何だかパワーを授かるような気がしませんか？さて、例年ですと、お祓いが終わって会社に帰り記念のお守りを従業員に配ってお終いですが、今年は帰ってからもうひと仕事ありました。地元の自治会が節分の日にちなんで催す**西久保豆まき大作戦**(西久保というのが弊社の住所です)という行事に参加したのです。子供たちが町内を練り歩きながらお店や会社を訪問し、そこで鬼に向かって豆をまくのではなく、鬼からお菓子をまいてもらって集めて歩くという趣向です。主催者の話では 20 名くらいの予定でしたが、実際は大盛況で親御さんも含めると 100 名以上集まったでしょうか。私も童心に帰って鬼のお面を被って子供たちにお菓子をまきましたが、用意したお菓子はあっという間になくなってしまいました。こんなことならもっと用意しておけばよかったと悔やまれます。今年はダブルヘッダーで厄落しをしましたので、きっと福が舞い込んでくることでしょう。後は夕ご飯に巻き寿司をまるかぶりして立春を待つばかりです。

さて、今月は先月に引き続き**山田錦 55%の純米吟醸の袋吊雫酒**をお薦めいたします。ご要望にお応えしてめいっぱい袋吊りしましたが、それでも数に限りのある商品です。是非ともお早めにご注文ください。

春とはいえまだまだ寒い 2 月のこと、おからだをお大切に。　　敬具

平成 25 年 2 月吉日　　鈴木　克昌